
刈谷市まちなかマネジメント構想

【刈谷市駅～亀城公園周辺エリア編】

目次

【刈谷市駅～亀城公園周辺エリア編】

1 将来構想	1
1-1 まちづくりの方向性と将来イメージ	1
1-2 想定される取組み	2
1-3 想定される取組みの概要.....	3
01 暮らしやすさと、活気に満ちたにぎわいと交流のあるまち	3
02 地域と地域をつなぐ、歴史を感じることができるまち	5
03 歴史や文化に出会い、楽しむことができる魅力あふれるまち	7
04 地域住民、行政などによる魅力的なまちの形成	9
2 外部有識者などの主な意見	10

刈谷市駅～亀城公園周辺エリアの概要

刈谷市駅周辺は、モータリゼーションの波の中で郊外への大型店舗の進出などにより、商業エリアとしての魅力が失われつつあります。近年は、土地の有効・高度利用が図られ、集合住宅の建設により、まちなか居住が進んでいることから、機能的で利便性が高いまちづくりが求められています。

また、刈谷市駅から亀城公園に続くエリアには、地域や人々の暮らしの中に、本市固有の歴史的・文化的資源が色濃く残っています。その周辺環境も含めてこれらの資源を保存・活用し、歴史や文化を核としたまちの魅力向上につなげるとともに、次世代へと継承していくまちづくりが求められています。

『刈谷市まちなかマネジメント構想【刈谷市駅～亀城公園周辺エリア編】』（以下「本構想」）の策定は、刈谷市駅～亀城公園周辺における、まちの現状を踏まえたうえでの10年から20年先の将来像としての空間・景観デザインの骨格や、住民、企業、商業者、行政などの様々な主体の参画、連携などによる今後のまちづくりの方向性を示すことにより、まちなかの魅力をさらに磨き上げ、人の交流や暮らしやすい住環境の形成などを推進することを目的とします。

1 将来構想

1-1 まちづくりの方向性と将来イメージ

(1)まちづくりの方向性

歴史と文化に触れる、交流と愛着の感じられるまちづくり

「刈谷市駅～亀城公園周辺エリア」は、名鉄刈谷市駅が位置することにより、本市の中心市街地を構成する「核」の1つとして位置付けることができるエリアです。特に、本エリアは、本市の歴史を語るうえで、重要な刈谷城址(亀城公園)をはじめ、大手門跡や文礼館跡、札の辻跡などが残る城下町、神社、寺院や、万燈祭、大名行列、山車祭など、数多くの歴史的・文化的資源を有しています。

そうした中、大正3年(1914)に開業した刈谷市駅(当時は刈谷町駅)周辺は、当時、まちの中核を担っていました。その後、商業の中心がそれまでの刈谷市駅周辺から刈谷駅周辺へ移っていったこと、また、それに伴い刈谷市駅周辺が住宅中心のまちへ移り変わったことなどにより、現在では歴史や文化の趣きが色濃く残る落ち着いた住宅地となっています。

刈谷城築城から数えて480余年の長い年月の中で育まれてきた歴史的・文化的資源を活かし、地域住民だけでなく、訪れる人にとっても、歴史と文化に触れる、交流と愛着の感じられるまちづくりを目指すものとします。

(2)まちの将来イメージ

01 暮らしやすさと、活気に満ちたにぎわいと交流のあるまち

生活に必要な施設がバランスよく整備され、地域の伝統文化を感じることができる暮らしやすいまちを目指します。

02 地域と地域をつなぐ、歴史を感じることができるまち

地域固有の歴史的・文化的資源を保存・活用し、歩いて楽しむことができる趣きのあるまちを目指します。

03 歴史や文化に出会い、楽しむことができる魅力あふれるまち

歴史や文化を次世代へ伝えるとともに、それらを学び、楽しむことができる魅力あるまちを目指します。



1-2 想定される取組み

前項に示した「1-1(2)まちの将来イメージ」の形成に向けて進めていく取組みを以下に示します。
また、これらの取組みのおおよそ位置は下図のとおりです。

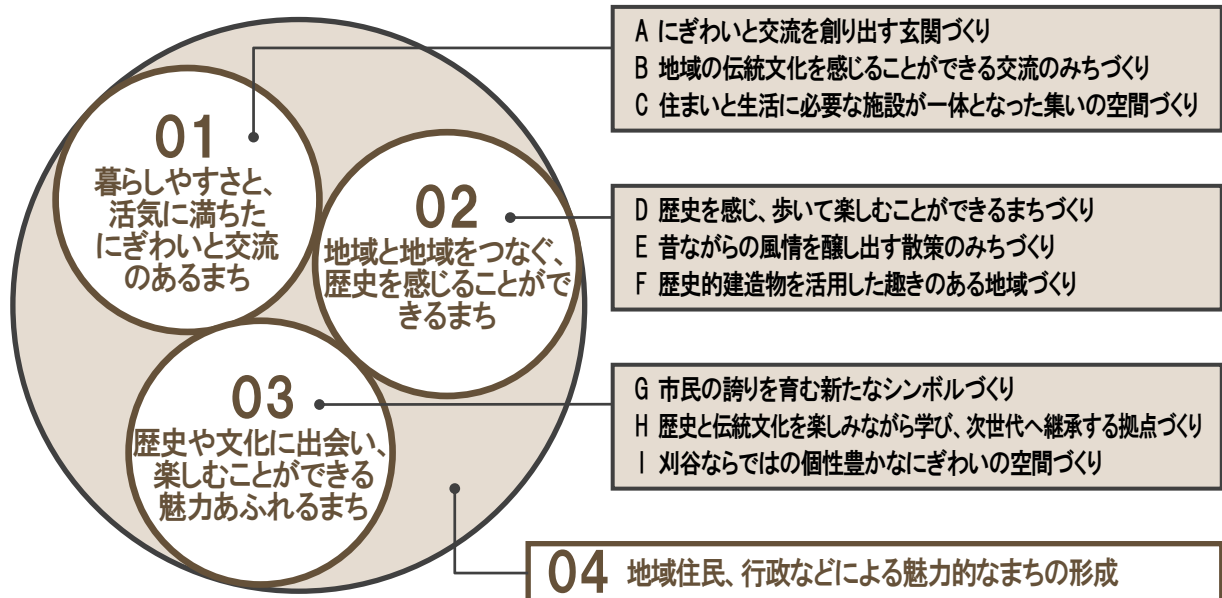


図 まちの将来イメージの形成に向けて進めていく取組み

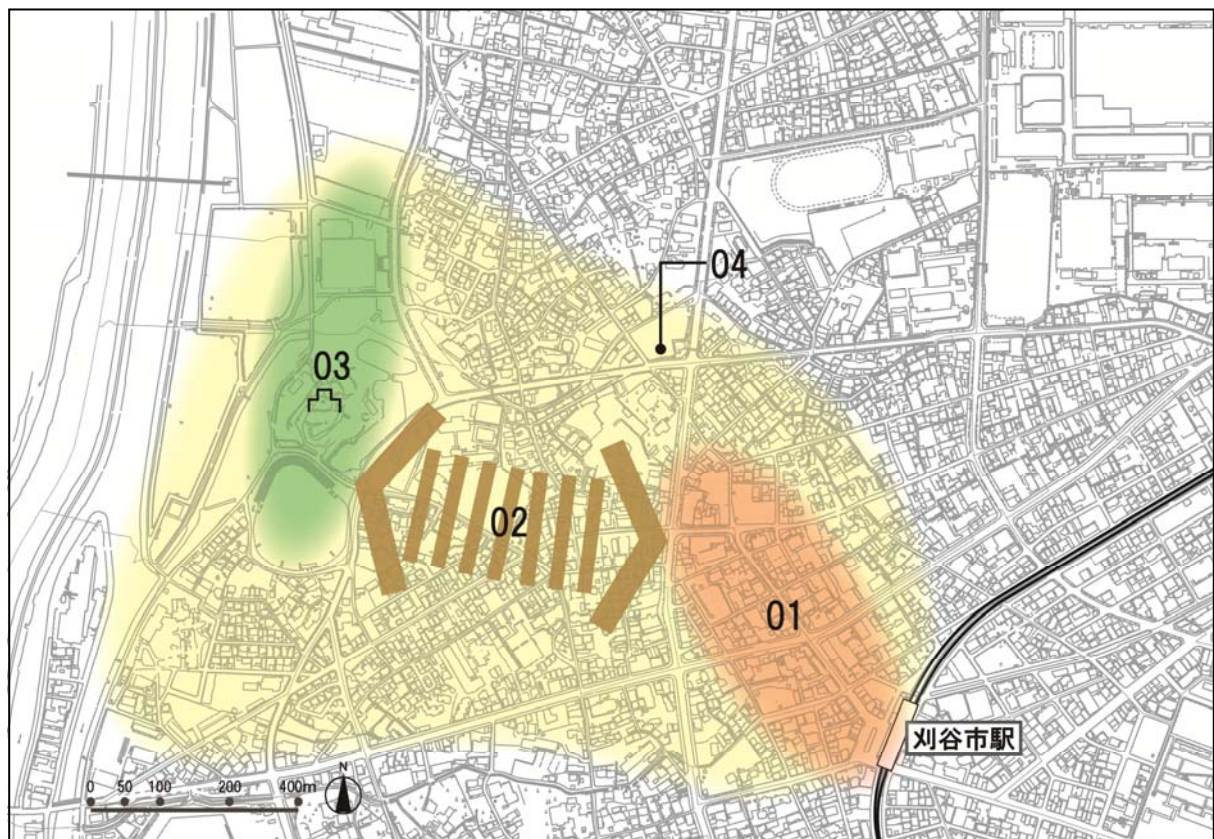


図 取組みの位置

1-3 想定される取組みの概要

01 暮らしやすさと、活気に満ちたにぎわいと交流のあるまち

本エリアは、かつては多くの人の交流やにぎわいをもたらしていた商店が減少し、落ち着いた住宅地へと徐々に遷り変わる中で、脈々と引き継がれてきた地域の伝統文化などが色濃く残っています。また、通勤・通学者の利用が多くを占める名鉄刈谷市駅があり、交通の面での利便性の高さを伺うことができます。

今後は、地域住民の暮らしを中心に、市外から訪れる人にとって利便性が高く、魅力を感じられる駅前空間の創出など、暮らしやすさと、活気に満ちたにぎわいと交流のあるまちづくりが求められています。



A にぎわいと交流を創り出す玄関づくり

バスやタクシーの乗降、一般車の送迎が可能なロータリーをはじめ、イベントなどが開催できる空間を有した、にぎわいと交流を創り出す玄関づくりを推進します。



B 地域の伝統文化を感じることができる交流のみちづくり

市の代表的な祭りである「万燈祭」など、地域の伝統文化を感じることができる交流のみちづくりを推進します。



C 住まいと生活に必要な施設が一体となった集いの空間づくり

住居のほかに、商業、子育て、福祉施設などが入居する機能的で利便性の高い、住まいと生活に必要な施設が一体となった集いの空間づくりを推進します。

02 地域と地域をつなぐ、歴史を感じることができるまち

本エリアは、刈谷市駅周辺と、本市の歴史を語るうえで重要な亀城公園周辺をつなぐとともに、歴史を感じることができる通りや建物などが残ることから、歴史的な趣きを垣間見ることができます。また、これらの地域は歩いて巡ることができる範囲内に位置しています。

こうした恵まれた歴史的・文化的資源を多くの人に、歩いて、見て、感じてもらえるよう、地域と地域をつなぐ、歴史を感じることができるまちづくりが求められています。



D 歴史を感じ、歩いて楽しむことができるまちづくり

歴史的な趣きが残る通りや建築物などと、周囲のまちなみや景観を一体的に活用することで、歴史を感じ、歩いて楽しむことができるまちづくりを推進します。



E 昔ながらの風情を醸し出す散策のみちづくり

地域住民の交流の場や、まちなみ散策を行う人たちの休憩の場、歴史や文化の発信の場などとして活用できる空間を整え、地域と地域をつなぐ、昔ながらの風情を醸し出す散策のみちづくりを推進します。



F 歴史的建造物を活用した趣きのある地域づくり

この地域に残る歴史的・文化的資源を再認識し、地域住民や来訪者にも愛される、歴史的建造物を活用した趣きのある地域づくりを推進します。

03 歴史や文化に出会い、楽しむことができる魅力あふれるまち

本エリアは、かつて刈谷城の本丸や二之丸などがあった場所に整備された、市民のシンボリックな公園である亀城公園が位置するエリアです。天文2年(1533年)に刈谷城が築城され、江戸時代に城下町が形成されました。しかし、産業の発展とともにまちなみが増え、歴史や文化を示す資源が失われつつあります。

本市固有の貴重な資源を保存・継承するとともに、まちの歴史や文化に出会い、楽しむことができる魅力あふれるまちづくりが求められています。



G 市民の誇りを育む新たなシンボルづくり

かつて刈谷城にあった石垣や隅櫓などを復元し、活用することで、歴史や文化に出会い、楽しむことができる、市民の誇りを育む新たなシンボルづくりを推進します。



H 歴史と伝統文化を楽しみながら学び、次世代へ継承する拠点づくり

現在の刈谷に繋がる“モノガタリ”を「見て」「知って」「体感・体験」できる、歴史と伝統文化を楽しみながら学び、次世代へ継承する拠点づくりを推進します。



I 刈谷ならではの個性豊かなにぎわいの空間づくり

来訪者への刈谷情緒あふれるおもてなしと、ふるさとの魅力を発信する、刈谷ならではの個性豊かなにぎわいの空間づくりを推進します。

04^{※1} 地域住民、行政などによる魅力的なまちの形成

①主体間の連携

にぎわいの創出や安全で快適な暮らしを享受できる地域社会を実現していくためには、地域住民、行政などが地域(エリア)のあるべき姿を共有し合い、まちづくりに対する役割を明確にしたうえで、まちの課題の確認や解決に向けた協働の環境(場や機会)と体制を整えていく必要があります。

さらに、こうした場や機会を通じた取組みを進めていくことで、将来的には自立性のある地域住民主導のまちづくりや、地域住民・団体による^{※2} エリアマネジメントなどに発展していくことが望まれます。

②人材の育成

まちづくりの主体は地域住民などであり、自らが魅力的なまちを実現しようとする際は、自らが地域の問題点や課題を自身のこととして捉え、行動していく必要があります。

そうした中、地域住民などによる主体的な行動を進めていくうえでは、地域全体を捉えた「広域的な視点」や、地域の活性化を捉えた「経営的な視点」、さらには異なる利害関係を調整する「コーディネートの視点」などの、高いマネジメント能力を持つリーダーの存在が、今後求められるところです。

このため、各種事業を進めていくことと並行し、まちづくりを支える人材の育成を、「地域住民などの意識の底上げ」と「リーダーの育成」の2つの観点から取り組んでいくこととします。

③情報の発信

まちづくりは行政だけで行うものではなく、また地域住民などだけで行うものでもありません。まちづくりは、多様な関係者間の協力と連携により進めていくことが必要とされるものです。

そうした中、これらの協力と連携を一層効果的に進めていくためには、それぞれの関係者が持つまちづくりに関する各種の情報を提供し合い、共有することが求められます。

このため、地域住民などは、各種まちづくりに関する情報発信を積極的に行うとともに、行政は、情報発信媒体の一層の活用や、公共空間などを効率的に活用するなど、地域住民などが発信する情報の機会や場をさらに提供するように支援していきます。

※1 地域住民などとは、住民、企業、商店・商店街などを指します。

※2 エリアマネジメントとは、「地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者などによる主体的な取り組み」のことを言います。(平成20年3月、国土交通省)

なお、「良好な環境や地域の価値の維持・向上」には、快適で魅力に富む環境の創出や美しいまちなみの形成、資産価値の保全・増進などに加えて、人を引き付けるブランド力の形成、安全・安心な地域づくり、良好なコミュニティの形成、地域の伝統・文化の継承など、ソフトな領域のもの含まれます。

2 外部有識者などの主な意見

本構想の策定にあたっては、学識経験者、地元住民代表、地元企業、商店街組合をはじめとする各種関係団体などと、対象エリアが抱える課題や将来のまちづくりの方向などについて意見交換を行いました。

その主な意見は以下に示すとおりです。

【主な意見のまとめ】

■刈谷市駅～亀城公園周辺エリア

- 散策の起点となる刈谷市駅や駐車場などからの案内看板や道しるべを整備すべきである。
- バスの発着や自動車のアプローチがしやすいよう、刈谷市駅のロータリーの整備が必要である。
- 近隣住民の移動のしやすさを考え、道路などを整備してはどうか。
- 食料品をそろえている商業施設など、高齢者の生活に必要な施設を整えてほしい。
- 住居地域の中心に喫茶店があったり、刈谷市駅近隣の企業や高校に通勤・通学する人たちが利用できる場所にちょっとした飲食店やコンビニエンスストアがあったりすると良い。
- 点在する歴史的な施設を視覚的につなぐため、道路の石畳舗装や無電柱化、通りに面する建築物を歴史が感じられる形態意匠にするなど、雰囲気づくりを行っていくことが必要ではないか。
- 歴史が残る地域であることを活かし、周辺を城下町風の建物としてはどうか。
- 刈谷市駅から亀城公園方面への動線に、歴史が感じられ、案内できるルートがあると良いと思う。
- 空き家や手入れがされていない小さい空地为市が買い取り開発してはどうか。
- 刈谷市のシンボルとして刈谷城の隅櫓を復元し、市民の憩いの場所、郷土愛を育む場所、子どもの学習の場所、後世に歴史を伝えるための場所としてはどうか。
- 亀城公園は花見の時期以外にも、イベントを積極的に開催すると良いと思う。
- 歴史博物館を市民がイベントを開催できる場所として開放したり、市民に期待感が持てるような情報発信を行ったりすることが必要ではないか。
- 祭りに関する展示がされていたり、疑似体験などができたりする場所があると良いと思う。
- 次世代や新しい住民が、地域の伝統や文化を理解し、郷土愛を育む場が必要である。
- 亀城公園周辺には観光に来てくれた人を案内できる飲食店が無い。刈谷市名産の物が販売されていると良いのではないか。
- 歴史を残していく地域と新しく開発していく地域を分けた都市計画としてはどうか。
- 規制を緩和し、河川や道路が積極的に利用されると良いと思う。
- 歴史が感じられる、住環境が整えられた地域になってほしい。
- 商店街振興組合などの組織の枠組みを越えて、地区の課題を地域住民全員で議論できるようにすると良い。 など

刈谷市まちなかマネジメント構想
【刈谷市駅～亀城公園周辺エリア編】
平成 29 年 3 月発行

発行 刈谷市

編集 企画財政部企画政策課

〒448-8501 刈谷市東陽町 1 丁目 1 番地

TEL 0566-23-1111(代表)

URL：<http://www.city.kariya.lg.jp/>